

子育て支援リーダー養成講座 第1回

講演 「山梨の子育て支援の歩みと課題」

～やまなし親学習プログラムの活用～

池田 政子 山梨県立大学教授

藤森 晴江 都留市家庭教育支援チーム

○当事者・現場から見た“子育て支援の歩み”と“課題”、実感を共有

→ “私たちの歩みと課題” = 山梨のこれまで

【1】自分自身の子育て支援の“歩み”をふりかえる

【2】山梨の子育て支援をふりかえる(H17～やまなし子育て支援プラン)

「子育て支援」の言葉は約18年前から(子育てサークルが活発化しその後)

- ①支援の社会的受容→行政の取り組みが始まる
- ②専門家の「指導」から当事者主体の「サポートへ」(教える→サポート)
- ③支援者の多様化 新たなニーズの掘り起こし ex. ピア・サポート
- ④支援対象者の細分化により支援内容の多様化が起こる
- ⑤支援拠点の増加と組織・団体の多様化→現在県内61カ所のセンター

【3】子どもたち・親たちの姿の変化

・児童虐待数の増加などから見える姿は…他

支援者は人間関係のコーディネーターとして、人と人をつなぐ
*親のエンパワーメントを通じて子どもの最善の利益をサポート

○「やまなし親学習プログラム」を活用しよう

・プログラムの意図と使い方

○コミュニケーションの力をつけるための活用実践事例

☆「親の気持ち・子どもの気持ち」

～親子のコミュニケーションを考えよう～

- ・『育てる』とは…子どもを自分の持ち物にしない。自立させる。
- ・今の子どもたちに必要なものとは…自己評価を高めること。「安心感」
- ・『親』の仕事…「基本」子どもの安心感を育てる 「目標」子どもの自立
- ・自立と『甘え』…甘えは愛情の要求。求めた愛情が満たされることにより自他共に信頼感が育ち、自立へとつながる。

(甘やかすのではなく甘えさせる)

・子どもの心を開く聞き方・話し方

◇親業とは…子どもを自立させること

◇ロールプレイ 子どもの気持ち、親の気持ち両方の立場で考える大切さ

◇親業の基本…子どもを安心させるメッセージを送る

◇おさまりの12の型 「あなたは〇〇」というメッセージでは、子どもは安心できない

◇ある親の体験談…「あなたの気持ちはわかった」というメッセージを送ろう

◇会話を通して子どもは…親が安心すると子どもも安心し、周りに優しくなり、自分で考えられるようになる。

